２０２３年3月１９日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「ゆるし」
聖書：マタイによる福音書１８：２１～３５

弟子のペトロは「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか」と尋ねた。ペトロの「七回までですか」とは、相当頑張ってのことかと思う。しかしイエスは、「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」とお答えになった。「赦し」には、限度を設けてはならないということ。

もし、私たちの罪が七回までだったら赦されるという限定された「赦し」ならどうなるか？ 私たちが人を赦す時の七回というのは、非常に忍耐がいて何とか赦してやろう･･･七回までだぞ！と力がこもるかと思う。しかし、私たち自身が七回までの限定された赦しならすぐにその七回目がおとずれ、罰せられてしまう者ではないか。ここの七の七十倍の赦しとは、限度を設けない赦し、イエス・キリストの私たちへの“赦し”に他ならない。

私たちには、人を赦すという力もなく、罪を犯さないという聖さもない者。そのような私たちを、主イエスは「赦す」とおっしゃる。

23 節以下で一つの譬話がある。まず 1 万タラントンの負債をしている者が赦されるという事が出て来る。この数字は個人が抱える額では有り得ない。日本円に換算すると、3 千億～6 千億円にもなる。これは一県、あるいは国家予算にも相当する金額。当時のイエスの居られたガリラヤ地域は、領主ヘロデの領土でローマ皇帝にこびるように仕え、皇帝の赦しを伺いながら、ガリラヤ住民から税金を巻き上げていた。住民の多くが負債を抱えながら、貧しくされながら、生活をやり繰りして行く。また、百デナリオンの負債を抱えた人は、50 万円から百万円程度。まさに個人レベルの負債ということ。自分は皇帝にこびり、皇帝のゆるしを伺いながらも、民の負債をゆるさない状況がこの時代の背景にあったということ。イエスはそういう現状に対しては厳しい言葉をもって叱責するわけだ。

今の私たちの社会情勢はどうか？沖縄を見る限り、決して住みよいとは言えない。基地負担が県外と比べて余りにも重く課せられた状況は、到底平等とは言えない。主イエスの視座には、貧しくされた側にあることを覚え、励ましと勇気を頂いて行きたい。

聖書は、私たち一人ひとりへ赦しが与えられている事を語り、七の七十倍の赦し、限度の無い赦しが与えられていること。それは同時に、赦されるという経験をしながらも、その生き方を変えられない状況に対するイエスの叱責もまたある。主の赦しには、人の生き方、この世のあり方への問いがある。（神谷）